

# ふるさとの昔話

## 頭のくぼんだ道祖神

古い道の片隅に静かにたたずむ道祖神。市内に幾つも見られますが、中でも須津や浮島、元吉原地区には頭のくぼんだ道祖神が見られます。さて、頭のくぼんだわけは……。



△頭のくぼんだ道祖神(中里)

△太田さん



### しゃーはらさん

「みっちゃん遊ば」 「うん、さっちゃん何して遊ぶ？」 みっちゃんときさっちゃんは大の仲良し。二人は道祖神の前を通ってお寺の広場に行きました。「そうだ、しゃーはらさんをつくろう」しゃーはらさんとは、新しい竹でつくる人形のことです。早速みっちゃんは竹を切ってきました。さっちゃんは竹をたたく石を探し、二人で道祖神のところへ行って行きました。そして、みっちゃんは道祖神の頭

に竹を乗せ、石でたたき始めます。隣では、さっちゃんが、♪一つ石屋のいっちゃんか…♪なんて歌っています。しばらくすると、みっちゃんの竹はたたいたところが糸のようにはらばらになりました。「はい、交代。今度はさっちゃんの番」こうして二人は竹の上半分を髪の毛にした人形づくりを始めました。顔をかき、髪に花をさして、家で紙や布の着物を作ると完成です。その日は、みっちゃんもさっちゃんも大変上手にできました。

また、男の子は、よもぎの葉を取ってきては、やはり道祖神の頭に乗せ、たたきました。すると、緑の汁が出てくるので、それでいたずらがきをするのです。こうして、道祖神の頭はだんだんくぼんでいきました。これは、みんなのおじいちゃんやおばあちゃんが、子供のころのお話です。今は、こんな遊びはなくなりました。

### 塞の神とも呼ぶ

近くの道祖神を毎日お参りしているという船津の太田はるゑさんは「この道祖神は塞の神と呼ばれています。家族が健康に暮らせますようにとお願しているよ」と話してくれました。

### あなたの生活便利メモ ⑪

## ポン菓子機などを貸し出し

米のポン(はでら)菓子といえは「バーン」という大きな音。そばでおびえながらも、楽しみに待ったものです。

市の農政課では、米の消費拡大の一環としてポン菓子機やポンせんべい機を無料で貸し出しています。担当の鈴木妙子さんは「お米一升でポン菓子ならおわん五十はい分くらい、せんべいなら二百枚



くらいできます。操作は簡単でだれでもでき、地域の行事などに利用されています。貸し出しは予約制で、行事の多い月は込みますからお早目に。また、手づくりのみそが作れるみそづくり機もあります。みそは一工程に三日かかり、ねかせる時間もかかりますが楽しいですよ。グループでどうぞ」と勧めます。内線二五六四へ。

### こちら編集室

悲喜こもごもの人事異動。編集室のスタッフも、一人が異動。彼は黙っていれば、スッキリ、さわやか、現代風なドライブミミ。いな男。だが、しかし、彼の言葉に酔い、笑いころげ、新しいアイデアの生まれたことも幾たびか。名物広報マンが、行ってしまった。



### 遊々タイム

#### 【小鳥の水やり】

伝法沢の傘木あたりは、静かな小道の多いところ。ひよどりやコジュケイも飛んできます。

稲葉ヨウコさんのお宅には、通りに面して形のいい松が一本。その根元の石のくぼみにたまった雨水を飲み、雀がやって来ました。以来ヨウコさんは、水を絶やしたことはありません。「春になると、雀の声にぎやかで朝寝してられないくらい。1羽が水浴びしていると、ほかのが石の上で順番を待っていてかわいいよ。散歩で通る近所の犬も、ここで水を飲んでいくし」。ヨウコさんは、「小鳥の水やりおぼさん」と呼ばれています。